

一般診断法

現状

0.52

$$\text{上部構造} = \frac{\text{必要耐力}}{\text{保有耐力}} = \text{評価点}$$

ホーム入居の検でみる 総合診断書

竣工年月: 1980年9月(築40年)
 財来一取(在来軸組構法)
 建物コード: 000000
 日付: 2021年03月20日 10:00:11

判定内容	判定
上部構造評価点	◎
倒壊しない	◎
1.0以上1.5未満 一応倒壊しない	○
0.7以上1.0未満 倒壊する可能性がある	△
0.7未満 倒壊する可能性が高い	×

階	方向	配置	低減係数	必要耐力 (kN)	保有耐力 (kN)	評価点
2	X	1,000	1.000	23.26	43.60	0.53
		1,000	1.000	23.09	43.60	0.52
	Y	1,000	1.000	23.09	43.60	0.52
		1,000	1.000	23.09	43.60	0.52
1	X	1,000	1.000	46.03	55.10	0.72
		1,000	1.000	46.03	55.10	0.72
	Y	1,000	1.000	46.03	55.10	0.72
		1,000	1.000	46.03	55.10	0.72

必要耐力 (Qr) 計算方法

一般算法 精算法

必要耐力 (Qr) 計算方法

$$Q_r = \text{床面積} \times \text{必要耐力係数} + \text{多雪区域加算} + \text{地震地域係数} \times \text{軟弱地盤割増} \times \text{形状割増} \times \text{屋根構造割増}$$

階 1: 床面積 89.44 m², 必要耐力係数 0.56, 多雪区域加算 0.00, 地震地域係数 1.00, 軟弱地盤割増 1.00, 形状割増 1.00, 屋根構造割増 1.00
 階 2: 床面積 77.85 m², 必要耐力係数 0.85, 多雪区域加算 0.00, 地震地域係数 1.00, 軟弱地盤割増 1.00, 形状割増 1.00, 屋根構造割増 1.00

保有耐力 (Pd) 計算方法

4分算法 信心率

保有耐力 (Pd) 計算方法

$$P_d = \text{階} \times \text{方向} \times \text{無開口壁耐力} + \text{その他の耐震要素} \times \text{床仕様} \times \text{耐力低減係数} \times \text{劣化による低減係数}$$

階 1: 方向 Y, 無開口壁耐力 76.70, その他の耐震要素 4.62, 床仕様 I 合板, 耐力低減係数 1.00, 劣化による低減係数 0.70
 階 2: 方向 Y, 無開口壁耐力 25.64, その他の耐震要素 7.60, 床仕様 III 火打ちなし, 耐力低減係数 1.00, 劣化による低減係数 0.70

評価点分析

評価点分析

接合部 I: ホールダウン, 羽子板, ホルト
 接合部 II: 山形, かど金物
 接合部 III・IV: 仮差し, かすがい
 基礎 I: へた基礎, 健全な鉄筋コンクリート
 基礎 II: ひび割れのある鉄筋コンクリート (ひび割れ無し), 玉石基礎 (200mm程度露筋)
 基礎 III: その他の基礎

